

レジオネラ症って何？

2023年9月に福井県内の温浴施設でレジオネラ属菌が検出されました。レジオネラ属菌によるレジオネラ症の患者報告は年々増加しており、珍しい感染症ではありません。基礎から家庭や施設で気を付けるポイントを解説します。

～レジオネラ属菌～

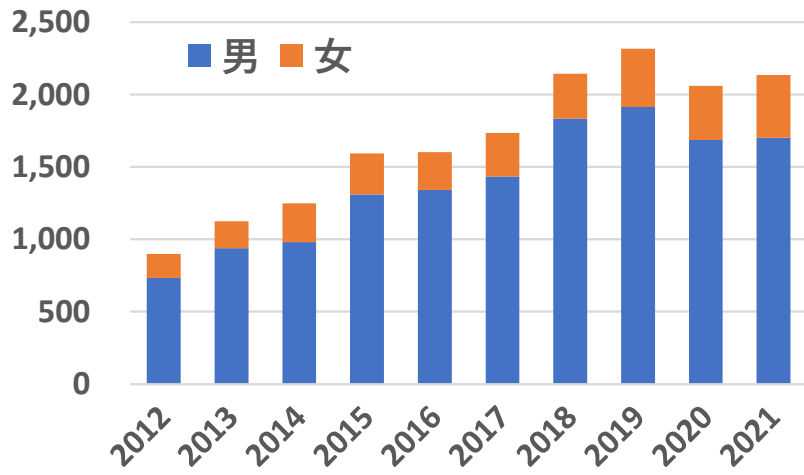
自然界（河川、湖水、温泉や土壌など）に生息している細菌です。アメーバに寄生し、20～50℃で増殖します。

汚染されたエアロゾル（細かい霧やしぶき）

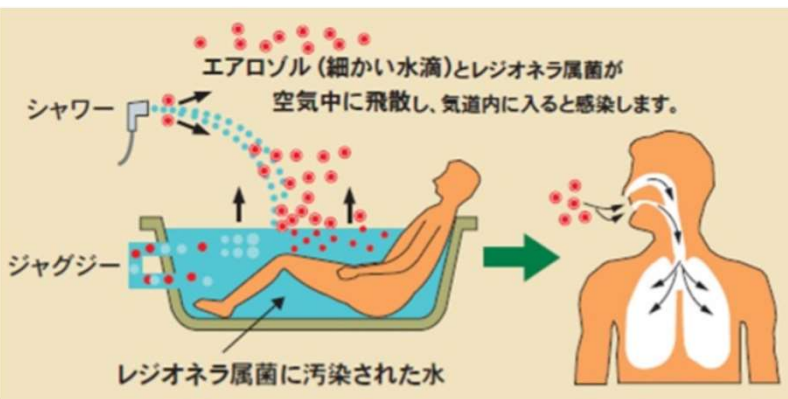
の吸入などによって感染し、感染源として冷却塔水、加湿器や循環式浴槽などが報告されています。浴室では、打たせ湯、シャワー、ジャグジーなどによりエアロゾルが発生します。

家庭菜園で腐葉土の粉じんを吸い込んだことが原因と思われる感染事例も報告されています。

レジオネラ属菌はヒトからヒトへ感染することはありません。



全国のレジオネラ症患者の年間報告数
(国立感染症研究所の報告により作成)



レジオネラ属菌の感染経路（浴室）

～レジオネラ肺炎～

レジオネラ属菌を原因とする肺炎で、適切な治療をしないと命にかかわることもある怖い感染症です。高齢者、大酒家、喫煙者、透析患者、免疫機能が低下している人は、レジオネラ肺炎のリスクが高いとされています。

マクロライド系やニューキノロン系の抗菌薬にて治療されますが、早期診断、早期治療が重要です。予防ワクチンはありません。

～家庭での衛生管理ポイント～

・浴室

① 浴槽水の完全換水

毎日お湯を入れ換えている場合は問題ありません。循環ろ過器を設置している場合、週1回以上はおこないます。

気泡発生装置を設置している場合、連日使用している浴槽水は使用しないようにします。

打たせ湯やシャワーも、循環している湯水の使用を避けます。

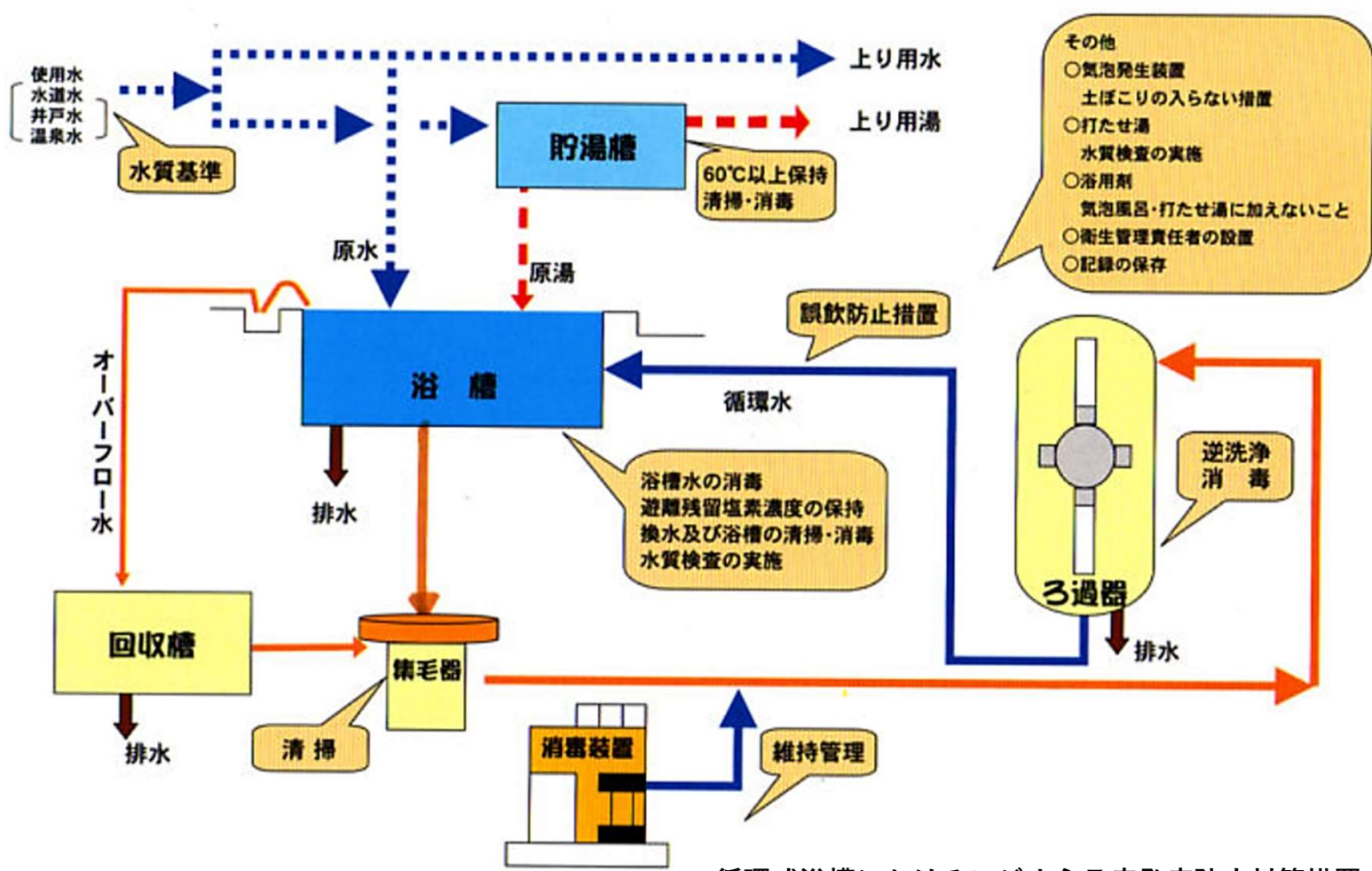
② 入浴者への注意点

浴槽に入る前に身体の汚れを洗ってから入ります。浴槽内で身体は洗わず、タオル・手ぬぐい等は使いません。

・加湿器

タンクの水はこまめに取り換え、使用する水も水道水など衛生的な水を使用します。

ノズルの清掃やタンクの洗浄を定期的におこない、使用しない期間は水を抜いておきます。



循環式浴槽におけるレジオネラ症発症防止対策措置
(大阪府ホームページより引用)

～温浴施設における管理～

・循環式浴槽

① 浴槽水

浴槽に十分な原湯または原水を供給し、常に満杯状態にしておく。

浴槽水に塩素を注入し、遊離残留塩素濃度は1Lあたり0.4mg以上に保ちます。レジオネラ属菌の宿主（すみか）となるアメーバが定着すると、塩素消毒で殺菌することが難しいことが指摘されており、ぬめりを浴槽の床や配管内に発生させないことが重要です。

泉質によっては塩素を規定量添加しても消毒効果がすぐに消耗され、微生物に対して十分な効果が得られない事例があります。

② 浴槽の清掃、消毒

週1回以上完全換水し、逆洗浄による清掃と消毒をおこないます。循環配管の消毒も必要です。

③ 集毛器（ヘアーキャッチャー）等の清掃、管理

集毛器は毎日清掃します。回収槽は湯水が滞留するので、定期的に内壁の洗浄、消毒をおこないます。貯湯槽は通常60℃以上に保ち、槽内は定期的に清掃・消毒します。

ジェット装置、気泡発生装置、消毒装置、シャワーヘッドなど浴槽に付帯する設備は、適切に維持管理します。

④ 水質検査の実施

水質検査（大腸菌群、レジオネラ属菌など）を原則、年1回以上実施します。基準（10CFU未満/100ml）に適合しなかった場合、保健所に報告し指導を受けます。

⑤ 維持管理記録の作成、保管

衛生管理責任者を置き、自主管理マニュアルや点検表を作成し、記録は3年間保存します。